

第 2 回 都市対抗世界子ども将棋団体戦

— ベラルーシチームとドイツチームを招いて —

理事長 山田 彰

主催：将棋を世界に広める会

後援：日本将棋連盟
外務省

協賛：全日本空輸株式会社（ANA）
渥美雅之 杏林堂名誉会長

【Ⅰ】準決勝まで

今年開催の「第 2 回 都市対抗世界子ども将棋団体戦」は、欧州諸国を対象に開催した。ISPS は、欧州将棋連盟に所属する各国の将棋連盟関係者などを通じて、参加を募ったが、最終的にはベラルーシから 2 チーム、ドイツ、フランスから各 1 チームの計 4 チームが参加した。幾つかの国（都市）は、チームとしての参加を検討していたが、3 人の子ども（15 歳以下）が集まらず、参加を断念することになった。

欧州では、以前は子供たちの将棋の大会も各地で開催されていたが、コロナ禍ですべて中止に追い込まれ、パンデミックが終わった後も大人たちの大会は旧に復したが、子どもたちの大会は元に戻っていないという状況にあるようだ。

準決勝は、8 月 24 日、ドイツ対フランス・グルノーブル、ベラルーシのミンスク将棋道場チーム対銀冠チームの間で、それぞれ 81dojo を使ってオンラインで行われた。結果は、

- ① ドイツ 3 - 0 フランス・グルノーブル
- ② 銀冠 3 - 0 ミンスク将棋道場

で、ドイツ・チームとベラルーシの銀冠チームが日本開催の決勝戦に進出することになった。

ベラルーシは、子どもたちについては欧州で一番普及が進んでいる国である。30 名を超える子どもたちが常時将棋を指しているようで、2 チーム以上の参加も可能であった。

【Ⅱ】子どもたちの来日と決勝戦

今大会は、全日空からの支援（欧州・日本間の航空券提供）を得て、2 チーム（各引率者 1 名と子ども 3 名）を国際将棋フォーラムの時期に合わせて、日本に招待し、東京の旧将棋会館で決勝戦を開催することにした。

訪日チームが決まった後、航空券、査証、宿舎の手配や滞在日程の準備に苦労したが、11月7日、ベラルーシとドイツの子どもたちが無事に来日した。

翌8日、一行は東京スカイツリーなどを見学の後、午後千駄ヶ谷の旧将棋会館を訪れ、国際将棋フォーラムの一環として行われていたプロ棋士による指導対局、国際将棋コーナーでの自由対局で、本番前に腕を磨いた。

9日は、いよいよ旧将棋会館での決勝戦となり、ベラルーシ銀冠チームが優勝したが、その様子は別稿をご覧願いたい。

決勝戦の後、両チーム一行は、新将棋会館で羽生善治会長、藤井聡太七冠と会う機会が設けられた。子どもたちはとても感激した様子で、羽生会長から「何か聞きたいことはありますか？」と振られても緊張のあまりか声が出ない。代わりにドイツの引率者ヤニックさんが「将棋が強くなるためにはどのような勉強法が良いですか？」と質問し、羽生会長は「これは藤井さんに答えてもらいましょう」と任せた。藤井七冠は「自分は小さい頃は詰将棋の問題をよく解いていた。けれども、これが正解という勉強方法はないと思うので、自分が好きなやり方を見つけるのが良いでしょう」と語りかけた。子どもたちにとって、二人に会えたことが大きな思い出として心に残ったようである。

その後、表彰式を行い、両チームに表彰状、賞品の棋書が渡されたが、子どもたちはさっそく棋書の詰将棋の問題を解いていた。

10日は、子どもたちを案内して午前は隅田川クルーズなど観光に充て、午後は両国将棋センターに将棋を指しに行くことにした。すると、子供たちの一行に国際将棋トーナメントのベラルーシ代表とウクライナ代表、ベラルーシ人の元欧州チャンピオンも一緒についてきた。ウクライナのオメルチャクさんに「どうしてベラルーシの人と一緒に来ることになったの？」と聞いたら、

「ベラルーシのチームの引率者リセンカさんとヨーロッパで将棋を通じて良く知っていたから」との返事。「二人は Shogi friends だね」と言ったら、「そうだよ」と彼は答えた。将棋を通じた、国境を越える友情・・・現在の両国を取り巻く状況を考えて、ちょっと心が温くなるエピソードであった。



両国将棋センターにて

「ベラルーシのチームの引率者リセンカさんとヨーロ

ッパで将棋を通じて良く知っていたから」との返事。「二人は Shogi friends だね」と言ったら、「そうだよ」と彼は答えた。将棋を通じた、国境を越える友情・・・現在の両国を取り巻く状況を考えて、ちょっと心が温くなるエピソードであった。

両国将棋センターでは、席主の佐久間さんの細やかなご配慮により、一行は日本のアマ強豪や子供たちと対局する機会を持ち、最後は西山女流三冠の扇子もプレゼントされるな

ど、時間の許す限り将棋を楽しむことができた。

ドイツとベラルーシの子供たちは、時間があればミニ将棋盤やスマホで将棋を指しているという感じで、日本にいる間は将棋三昧の日々を過ごした。11日、羽田空港から帰国する彼らは、日本の滞在が本当に楽しくて、帰りたくないですと、感想を漏らしていた。

【Ⅲ】 今後に向けて

都市対抗世界子ども将棋団体戦は、去年は東アジア・大洋州、今年は欧州を対象に開催したが、子どもたちのチームの募集に困難が付きまとった。参加チームが少なかったことは、率直に言って反省材料である。欧州では、前述のとおり（ベラルーシを除けば）子どもたちが直接顔を合わせて集まり将棋を指す機会が少ないようであり、子どもへの普及はまだ先の長い課題である。ただ、レーヴェキャンプ・ヨーロッパ将棋連盟（FESA）会長は「ISPSの世界子ども将棋団体戦は、将棋を指す子供たちにとって大きなモチベーションになったと思う。ヨーロッパでも、子どもたちが将棋を指す機会をもっと増やしたい。」と語っていた。そして、子ども将棋団体戦の様子は、FESAのウェブサイトでも紹介された。

世界の各国で将棋が広まり、根付いていくためには、その国の子どもたちが継続的に将棋を指すようになることが重要であろう。都市対抗世界子ども将棋団体戦の開催を含め、世界の子どもたちに将棋を広める努力を継続していきたいところである。 （了）



「都市対抗 世界子ども将棋団体戦」

決勝戦の報告

報告者：理事 北 昌宏

予選を勝ち上がった、ベラルーシチームとドイツチーム(各団長を含め計8名)を日本に招き、快晴の空の下、決勝戦は、2024年11月9日(土)に行われた。開始時刻は、12時30分。日本将棋連盟旧会館の2階にある旧将棋道場の奥に、「仕切り壁」を設け実施された。同じ旧将棋道場では、既に、10時より「国際オープン将棋大会」が開催されており、「仕切り壁」は、互いが邪魔しないために、設けられたものである。

対局方式は、3人の選手による団体戦で、対局時計を使用し、持ち時間は15分。使い切ると30秒の秒読みという時間設定の下で行われ、各対局とも非常にレベルが高い、白熱した熱戦が繰り広げられた。ISPS 関係者以外にも「国際将棋トーナメント」に参加した各国の将棋愛好家が多数観戦し、その中に、FESA 会長レーヴェ・キャンプ氏もおられた。

対局は、振りごまの結果、ベラルーシ奇数番号が先手となった。

【対局結果】

	ベラルーシチーム	ドイツチーム	【結果】 勝者名 (国)
① 大将	VALKOU PAVEL	KAMO DAN	VALKOU (ベラルーシ)
② 副将	CHERNASHEVICH DZMITRY	TAKAYANAGI KAITO	TAKAYANAGI (ドイツ)
③ 三将	RACHKOUSKI MIKHAIL	SUGANAMI LEO	RACHKOUSKI (ベラルーシ)
【結果】	【2勝1敗でベラルーシチームの勝ち】		



大将戦の棋譜は東奨励会員が採譜(中央マスク姿)。

青野九段も観戦されていて、大将戦について、コメントを頂いた。(後ほど提示)

決勝戦の様子

左 ベラルーシチーム 右 ドイツチーム
奥から 大将戦・副将戦・三将戦

【 表彰式 】

優勝したベラルーシチーム及び準優勝のドイツチームには、ISPS 山田理事長から賞状、副賞として棋書が贈呈された。



優勝した ベラルーシ チーム

左から
山田 理事長
LYSENKA 団長
CHERNASHEVICH
VALKOU
RACHKOSKI



準優勝の ドイツ チーム

左から
山田理事長
KAMO
SUGANAMI
TAKAYANAGI
JANIK 団長

【 大将戦 VALKOU PAVEL (ベラルーシ) 対 KAMO DAN (ドイツ) の棋譜 】

開始日時：2024/11/09 12:02:59 終了日時：2024/11/09 12:52:09

手数----指手-----消費時間--

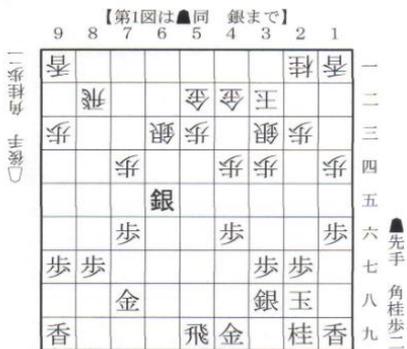
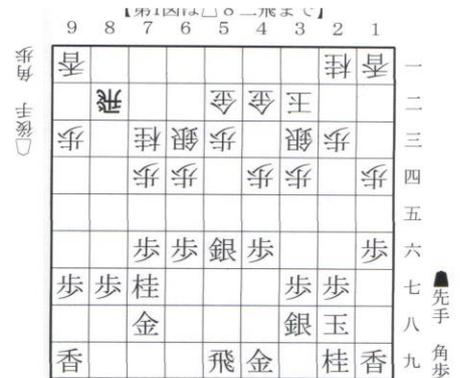
1 7六歩(77) (0:15/00:) 2 8四歩(83) (0:06/00:)

3 5八飛(28)	(0:03/00:)	4 8五步(84)	(0:05/00:)
5 7七角(88)	(0:02/00:)	6 3四步(33)	(0:02/00:)
7 7八金(69)	(0:02/00:)	8 6二銀(71)	(0:03/00:)
9 5六步(57)	(0:02/00:)	10 5二金(61)	(0:04/00:)
11 5五步(56)	(0:04/00:)	12 4二玉(51)	(0:02/00:)
13 4八玉(59)	(0:08/00:)	14 3二玉(42)	(0:14/00:)
15 3八玉(48)	(0:03/00:)	16 1四步(13)	(0:06/00:)
17 1六步(17)	(0:03/00:)	18 4二銀(31)	(1:01/00:)
19 5四步(55)	(0:21/00:)	20 7七角成(22)	(0:07/00:)
21 同 桂(89)	(0:12/00:)	22 5四步(53)	(0:05/00:)
23 同 飛(58)	(0:05/00:)	24 3三銀(42)	(0:34/00:)
25 6八銀(79)	(0:49/00:)	26 5三步打	(0:05/00:)
27 5九飛(54)	(0:02/00:)	28 6四步(63)	(0:05/00:)
29 2八玉(38)	(0:11/00:)	30 4四步(43)	(0:04/00:)
31 6六步(67)	(0:27/00:)	32 4二金(41)	(1:00/00:)
33 3八銀(39)	(0:10/00:)	34 6三銀(62)	(0:11/00:)
35 6七銀(68)	(0:04/00:)	36 7四步(73)	(0:44/00:)
37 4六步(47)	(0:19/00:)	38 7三桂(81)	(0:17/00:)
39 5六銀(67)	(1:25/00:)	40 8六步(85)	(1:20/00:)
41 同 步(87)	(0:04/00:)	42 同 飛(82)	(0:04/00:)
43 8七步打	(0:46/00:)	44 8二飛(86)	(0:04/00:)
45 6五步(66)	(0:36/00:)	46 同 步(64)	(0:02/00:)
47 同 桂(77)	(0:12/00:)	48 同 桂(73)	(0:11/00:)
49 同 銀(56)	(0:03/00:)	50 6四步打	(0:04/00:)
51 7三角打	(0:15/00:)	52 8一飛(82)	(0:58/00:)
53 6四銀(65)	(0:07/00:)	54 5四銀(63)	(0:50/00:)
55 5五銀(64)	(0:35/00:)	56 4三銀(54)	(0:30/00:)
57 6四角成(73)	(0:47/00:)	58 7五步(74)	(0:46/00:)
59 5四步打	(0:29/00:)	60 6三步打	(0:31/00:)
61 5三馬(64)	(0:40/00:)	62 同 金(52)	(0:30/00:)
63 同 步成(54)	(0:04/00:)	64 同 金(42)	(0:01/00:)
65 6五桂打	(0:44/00:)	66 5二金(53)	(0:02/00:)
67 5四銀(55)	(0:40/00:)	68 5八步打	(1:17/00:)
69 同 飛(59)	(0:17/00:)	70 6六桂打	(0:59/00:)
71 4三銀成(54)	(0:14/00:)	72 同 金(52)	(0:03/00:)
73 5二飛成(58)	(0:08/00:)	74 4二銀打	(1:32/00:)
75 5三金打	(0:19/00:)	76 同 金(43)	(0:08/00:)
77 同 桂成(65)	(0:04/00:)	78 5一金打	(0:42/00:)
79 4二成桂(53)	(1:20/00:)	80 同 銀(33)	(0:21/00:)
81 4三銀打	(0:03/00:)	82 2二玉(32)	(0:20/00:)

- 83 7二龍(52) (0:26/00:) 84 7八桂成(66) (0:28/00:)
- 85 3二金打 (0:31/00:) 86 1三玉(22) (0:24/00:)
- 87 4二銀(43) (0:14/00:) 88 5七桂打 (0:27/00:)
- 89 2二銀打 (0:15/00:) 90 2四玉(13) (0:04/00:)
- 91 3六銀打 (0:11/00:) 92 4九桂成(57) (0:27/00:)
- 93 3三銀(42) (0:06/00:) 94 同 桂(21) (0:03/00:)
- 95 同 銀(22) (0:03/00:) 96 投了 (0:05/00:)

【青野九段コメント】

後手（ドイツ）の気になる手は、**44手目**、飛車の引き場所を工夫したく、8三飛が良いのでは。



そして**50手目**に6四歩としたが、歩が2つあるときに1五歩、同歩、1七歩と攻めたい。6四歩には5四銀、7三角、8一飛。6四歩には7二銀の要領で。最後まで端を狙う発想がなかったのが残念。**(49手目 途中図掲載)**

54手目ここで6六桂なら、桂打ちが有効だった。



58手目。7五歩では、王手飛車取りを避ける意味でも6一飛と展開したい。

67手目。5四銀はやや危険。5四歩、4一桂、6四歩なら、安全勝ちだった。しかし結果的にこの手が早く勝つことになった。(66手目 途中図掲載)

【第1図は△6六桂まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	飛						桂	香
			金		王			
歩		歩		銀	銀	歩	歩	
			銀	歩	歩		歩	
		歩	桂					
		歩	桂	歩			歩	
歩	歩					歩	歩	
		金	飛		銀	玉		
香				金		桂	香	

▲先手 金歩四

【第1図は△5二金まで】

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	飛						桂	香
				歩		王		
歩		歩		銀	銀	歩	歩	
				歩	歩		歩	
		歩	桂	銀				
		歩			歩			歩
歩	歩					歩	歩	
		金				銀	玉	
香				飛	金		桂	香

▲先手 金歩三

70手目、6六桂は悪手というよ

り敗着。4三銀成とされては、たちまち後手の負けになった。5四同銀と取り、同飛、4三銀、7四飛、8三角の進行なら、互角の戦いだった。

全体として先手は中飛車を指し慣れている感じ。後手は受けに回るだけでなく、どこかで反撃を考える技術を身につければ、強くなるかと思う。

【 終わりに 】

ここでは、大将戦のみ棋譜を紹介したが、どの将棋も大変レベルが高く、正に、決勝戦にふさわしいものとなった。

一言付け加えておくと、決勝の大将戦で敗れた KAMO DAN 君（ドイツ）であるが、次の日行われた両国将棋センターの道場の交流会では、小学生大会県代表クラスを相手に勝利している。将棋を観戦していた、両国将棋センターの佐久間席主は、

「ドイツに居て、どうしてこれほどまで強く成れるのか」

と、驚きと嘆息を交えて語っていた。

(了)

国際将棋フォーラム 2024 開催

副理事長 松岡 信行

日本将棋連盟は、2024年11月7日(木)～9日(土)に東京・千駄ヶ谷の「新将棋会館」「旧将棋会館」などで「国際将棋フォーラム 2024」を開催。内容は多岐に亘り、千駄ヶ谷小学校での交流イベントを皮切りに、前夜祭・第9回国際将棋トーナメント・国際将棋道場・国際オープン大会・指導対局等、正に多種多様なイベントが繰り広げられた。

ISPSは、協力団体として、通訳を中心に全てのイベントに関わった。各会場には、大看板がそれぞれに設置されたのであるが、その全てに、「協賛 囲碁将チャンネル」「特別協力 読売新聞社／産経新聞社／日本経済新聞社」「個人協賛 渥美雅之」の文字とともに、「協力将棋を世界に広める会」と大書されたことを、まずは報告したい。

11月7日(木)に東京・市ヶ谷のホテルにて、「前夜祭」が開催された。羽生会長始め、およそ60名の棋士・連盟関係者と、出場選手・通訳を合わせ、約120名が参加しての盛大な会であった。この会で、山田彰理事長が乾杯の発声を行ったのであるが、その際にスピーチを添えた。日本語と英語とを交互に用いた、通訳無しのスピーチは、その内容を含め、まさに圧巻であった。



乾杯の音頭を取る山田理事長

その後、参加者達の懇談にはいり、それと同時に、第9回国際将棋トーナメントに参加する各選手、51名の予選リーグの組合せが発表された。続けて出場選手一人一人の挨拶があった。その際、英語に対しての通訳は連盟が用意したが、他の言語、中国語は小針副理事長、スペイン語は山田理事長、ロシア語は杉浦理事が通訳に当たった。ぶっつけ本番の通訳。普通は、皆、尻込みするのであるが、3人の、その淀みない通訳ぶりは、見事の一言に尽きる。その間、ISPSから参加した残る8名は、会場のあちこちに散らばり、通訳をかねながら、選手達との親睦を深めていたのである。

「第9回国際将棋トーナメント」に関しては、世界各国および地域で代表選考大会が行われ、45の国と地域から、事前に、合計51名の代表選手が決定し、1日目は4人1組で13ブロックに分かれて、予選リーグを戦い、Aトーナメント（予選2勝者）とBトーナメント（予選2敗者）出場選手を決定。両トーナメントともベスト4まで絞り込み、2日目はベスト4の対戦が行われた。BトーナメントはCarlos Daniel Muñoz Guerra選手（メキシコ代表）がEduard Panko選手（スロバキア代表）に勝ち優勝。Aトーナメントは許諾選手（中国代表）がMICHAEL WANG選手（アメリカ代表）に勝って優勝を決めた。

その後、藤井聡太竜王・名人とAトーナメント優勝者の許諾選手の角落ち記念対局が行われ、藤井竜王・名人が圧勝した。同時に大盤解説会が行われたのであるが、羽生善治会長が解説役を務めると言う、将棋連盟としては、正に、大盤振る舞いの大会となった。日本将棋連盟の海外普及への熱の入れ方が伝わってきた。

その間も、東京・千駄ヶ谷の「旧将棋会館」では、国際将棋トーナメントに参加した外国の選手との交流を目的にした「国際将棋道場」が開かれ、また、外国人の方を対象にした「国際オープン大会」が催された。また、同じ「旧将棋会館」では、11月8・9日（金・土）の両日にわたり、棋士・女流棋士による「指導対局」を行なわれ、ISPSの顧問である青野照市九段をはじめとして、野月浩貴八段、糸谷哲郎八段、中村太地八段、大野八一雄七段、近藤正和七段、遠山雄亮六段、北尾まどか女流二段、和田はな女流1級、砂原奏女流2級が指導に当たった。



指導対局室の風景



指導対局中の青野照市九段

写真の「指導対局室の風景」が示すように、多くの方々が参加した。

「第9回国際将棋トーナメント」をはじめとして、すべてのイベントに対して、ISPS関係者が通訳として配された。



ISPSのブース：手前左 兒玉理事 手前右 高橋会員
後ろ左から 石黒理事 松岡副理事長 清水（規）会員

先に示した「第2回 都市対抗世界子ども将棋団体戦」決勝戦も、この会場の一角で行われたのであるが、同時に行われたISPSのイベントは、もう一つある。旧会館2Fの旧道場と旧研修室との間にある踊場に「ISPSのブース」を設けた。ISPSの沿革を記した3枚の大きなパネルと、沿革の事実を示す2枚の写真。

それと「ANA・全日空」の写真を壁に吊るし、テーブル上には、外国で創られた普及のための棋書と、将棋の駒を紹介。この日のために作成したパンフレットの配布や「かけはし」の展示を行った。多くの人が集まり、「沿革」を読み、パンフレットを手にし、数多くの質問もいただいた。これには一つの仕掛けがある。「懸賞詰将棋」2題を模造紙大に引き伸ばし、写真の左側の壁に貼ったのである。多くの人が詰将棋に集まり、解答を考える中で、壁に目をやりテーブルの上に目を落としていた。作戦成功と言ったところか。ちなみに、掲載したブースの写真は、将棋連盟の公式SNSで全国に紹介されたものである。「国際将棋フォーラム2024」を引き継ぐ形で、11月10日（日）に「第50回 将棋の日」のイベントが渋谷区役所で開かれ、海外から来た選手と事前に応募した方々を対象とした「100面指し」が行われた。ここにも、ISPSに通訳の要請があり、松岡副理事長・寺



レーヴェキャンプ・ヨーロッパ将棋連盟会長に対し、一手指す、羽生会長

尾理事・市木理事が参加した。羽生善治会長をはじめとし、藤井聡太七冠・渡辺明九段・佐藤天彦九段など錚々たる顔ぶれが、一手ずつ指し継いでいく風景は格別であった。